No.44

学校図書館 司書だより

2022年12月

わたしと読書

本、読んでる？

金本 郁

読書の良さ、あなたなら何を挙げますか。

私は一つ目に、学校・宿題・部活など気ぜわしい日常を忘れさせてくれる存在であることを挙げます。現実の時間軸とはまた別の自分だけの空間に入り込める感覚が好きです。そして、本の世界に没頭し、読み終わった後に「もうこんなに時間がたっていたんだ」という充実感に満たされる瞬間が何とも言えません。

また、みなさんは本ならではの良さについて考えたことがありますか。今の時代、ドラマや映画へと映像化されたり、スマートフォンのアプリで小説を読むこともできます。それでも紙の本がなくならないのはなぜでしょう。理由は様々あると考えられますが、私は読んだ本を本棚に並べていくことをしており、目に見えてこれだけの本を読んだと実感できることが電子書籍よりも本を好む理由です。いつか本棚を読んだ本たちでいっぱいにしたいなと思っています。本を読んで得た経験や知識、感情が本という形で目に見えてあること、これが私の思う読書の良さの二つ目です。

三つ目の良さとして、本との出会いは人との出会いにもなり得るということを挙げます。高校でできた友達の一人とは、『図書館戦争』という本がきっかけで話すようになりました。また、教育実習中にも「この作者さん知ってるかも」の一言から、会話が盛り上がることもありました。このように、たくさんの本と出合うことが、人とつながるきっかけになります。

以上が私の考える読書の良さです。「読んでみようかな」「本ってすごいな」と思ってもらえたら幸いです。一番の願いは本を読んでほしいということで、いろいろな作品の世界観を味わってほしいです。そこで、まずは身近な学校の図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか。そこにはたくさんの出会いが待っています。

最後に、私がこれから読もうと思っている本を紹介します。一冊目は、新海誠さんの『すずめの戸締り』です。映画になっていたのでご存じの方も多いのではないでしょうか。私も映画を観ました。しかし、映画と本ではまた違った受け取り方をするかもしれません。その点を踏まえて、じっくり小説を読んで、この作品を考察したいと思っています。次に、相沢沙呼さんの『小説の神様』です。相沢さんの別の作品を読み、衝撃を受けたので、この方の作品をもっと読みたいと思いました。三冊目は、新井紀子さんの『AIに負けない子どもを育てる』です。この本は大学の教授にぜひ読んでほしいと言われたものです。

「すずめの戸締り」

「小説の神様」

中学校実習で配属になった学級では、たくさん本を借りている生徒がいたり、委員さんがおすすめの本を紹介したりして、読書を大切にしようとする気持ちが感じられ、素敵だなと思いました。それを見て私も「やっぱり本はいいな」と思ったし、「さらに本を読みたい」という気持ちになりました。みなさんもたくさん本を読んでくださいね。本当に本はいいよ。

金本さんは、教師を志して学んでいる大学生です。太田小学校・西中学校で教育実習を経験されました。

☆図書館クイズ☆
レオ・レオニさんの「フレデリック」からもんだいです。冬ごもりのため、ねずみのフレデリックが集めたものはなんでしょう？

読書タイム

みのかも文化の森の「本の部屋」情報コーナー

みのかも文化の森の1階には、情報コーナーという本や映像などのコーナーがあります。

このコーナーの本を手にとって読んだことはありますか。ここに並んでいるたくさんの本は、文化の森に来た人がいつでも読んで良い本です。

文化の森は「博物館」です。美濃加茂を中心としたこの地域の歴史のこと、生きている植物や動物などの自然のこと、この地域に住んでいた作家の絵や彫刻などの美術のこと、この町に住んでいた人々の暮らしのことなど、いろいろな事柄に関係する資料を集めたり、調べたり、展示したり、研修会を開いたりしています。展示を観たりお話を聞いたりした時、学校の授業で文化の森に来た後などに、「もうちょっと知りたいな。調べたいな。」そんな風に思った時に、ささっと本で調べることができるように、そして映像で観ることができるようにしています。

映像コーナーには美濃加茂市の中の文化財を紹介するビデオがあります。お祭りの様子や川の中の生き物の暮らしぶりなどを文化の森で過去に撮影したものです。実際に動いている映像は目から多くの情報を得ることができます。

本のコーナーにはいろいろな本があります。「どんな本が並ぶといいかな」「この本は興味深く手に取ってもらえるかな」と考えながら、文化の森の学芸員や学習担当のスタッフがみんなで選んでいます。これまでに文化の森で作った本や美濃加茂市のことを書いた本ももちろんあります。図鑑のようにたくさんの写真や本物そっくりに描かれた絵が載っている本もあります。初めてそのテーマを調べる人が読みやすい入門のような本や、もっと詳しい人にも読んでもらえるような専門的に書かれた本もあります。百科事典で言葉の意味を調べることもできますし、「博物館」の仕事について知ることのできる本やマンガなどもあります。また企画展という一年間に4回ほど開催する特別な展覧会の時には、そのテーマに合わせた内容の本を特別に取り出して手に取ることができるように、机の上に展示をしたりしています。

今はインターネットを使うことで、素早く自分が知りたいことを簡単に調べることができます。しかし簡単に調べたことはすぐに忘れてしまうもの。本を使って調べる時は、自分が知りたいことが「この本には載っているかな」「こちらの本は写真や絵がいっぱいあるな」といろいろ試行錯誤したり、同じテーマの本を並べてどんなふうに書かれているのか比べたりすることになります。少し時間がかかるけれど、自分で考える力がつくでしょう。調べる途中で別の「面白いこと」に出会うこともできます。そして何よりも色々な本から学ぶこと、それはとても楽しいことですよ。

自分が知りたいことの小さな「タネ」に、いろいろな本から得られた「光」や「水」「栄養」を加え「もっと知りたい！」「もっと調べたい！」という「木」に、そしてさらに大きな「森」に育てていく、そんな自分で調べて学ぶ時の助けになることができたらと考えてこのコーナーをつくっています。

この本読んでみて！

物語

「まえばちゃん」
かわしまえつこ/作　いとうみき/絵
童心社¥1,100

歯がぐらぐらになって「いやだなあ」と思ったこと、だれにでもあると思います。でも、もしそんな歯とお話ができたらどんなことを話すのかな？

赤ちゃんの頃からずーっと一緒だった自分の歯と仲良くなったら、お別れするのがちょっぴりさみしくなるかもしれませんね。

えほん

「まゆとおに」やまんばのむすめ　まゆのおはなし
富安陽子/文　降矢なな/絵
福音館書店￥990

まゆはやまんばのむすめ。ある日、山の中であたまにツノのある大きな人に会いました。いっしょにあそぼうとさそわれて、ついて行きますが…。

見どころは、小さくても力もちのまゆのかつやく、大はくりょくのオニ、どのページのすみっこにもいるキツネのようすです。

大人むけ

「思春期のトリセツ」
黒川伊保子/著
小学館￥860

思春期は子ども脳から大人脳への移行期。思春期の脳は不安定で制御不能だそうです。そんな状態で受験や恋を経験する子どもたちは大変です。「取扱い要注意」の難しい時期に頼ってみたい「トリセツ」。大人だけでなく子どもたちにも読んでほしい一冊です。

小説

「掬えば手には」
瀬尾まいこ/著
講談社￥1,595

僕は、すべてが完全に平凡な人間だ。そんな僕には人の心を読むことができる特殊な能力があるらしい。その能力を存分に使って生きていけばいい。学生の梨木を主人公に、様々な背景をもった個性的な人たちが交差する物語です。

瀬尾まいこさんの強くあたたかい文体に守られながら、感動の終盤まで一気に読み進められること間違いなし。

このコーナーで本を紹介しているのは、
市内の学校司書３人と東図書館司書です。

☆図書館クイズの答え☆　「おひさまの光」「いろ」「ことば」の三つです。
フレデリックのように、たくさんの言葉を集めて自分や周りの人を豊かにしよう！